

【再評価】

(別添3)

平成29年度

神奈川県県土整備局公共事業評価委員会

平成29年度

神奈川県県土整備局公共事業評価委員会

再評価対象事業 調書・図面集

県土整備局

【再評価】

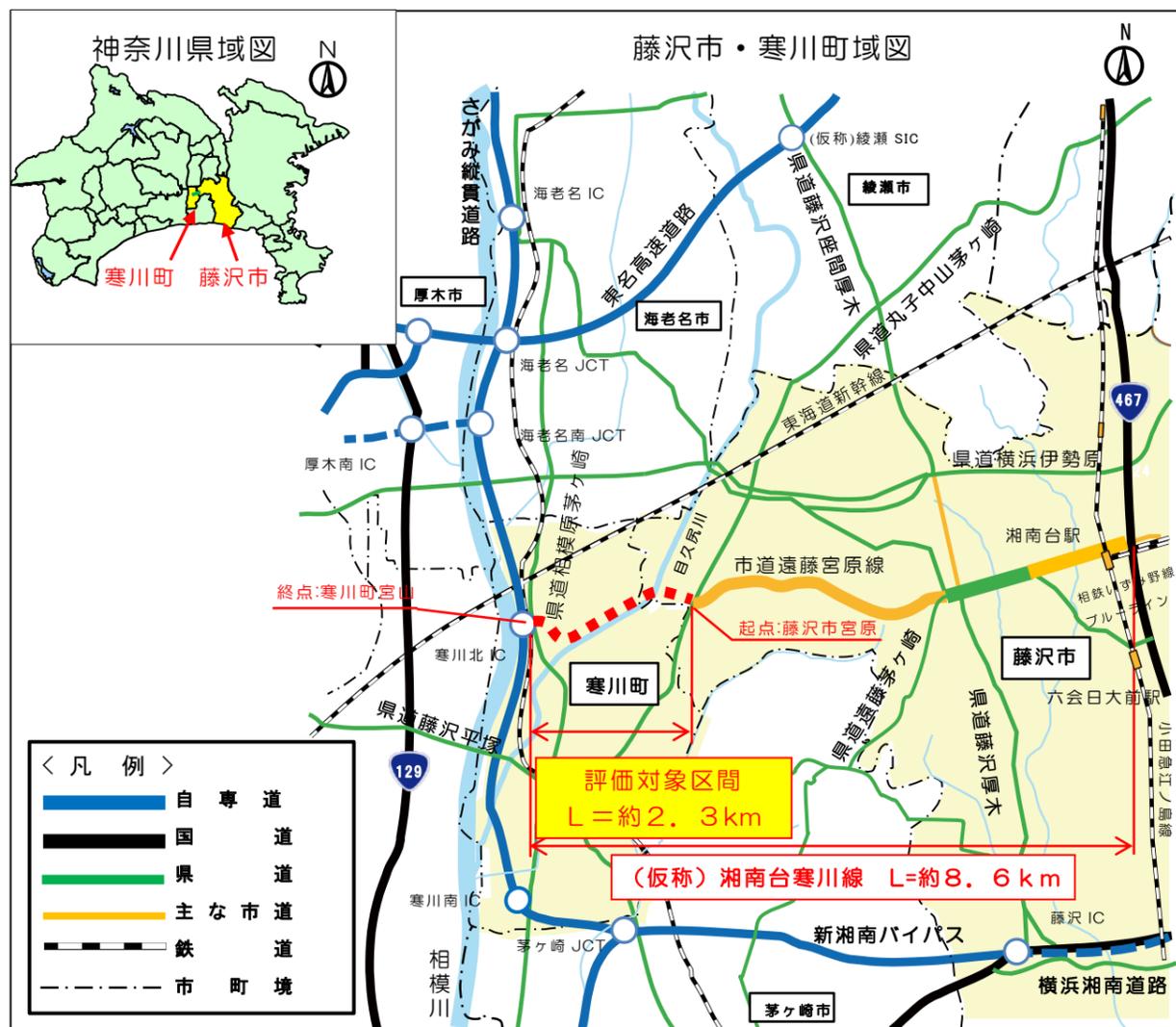
No. 1 県道45号 丸子中山茅ヶ崎 (仮称)湘南台寒川線 道路改良事業

◆ 事業概要

1. 概要

1) 全体の概要

- ア) 本路線は、藤沢市湘南台方面とさがみ縦貫道路の寒川北ICを結び、県央・湘南地域における新たな東西軸を形成する延長約8.6kmの主要な幹線道路である。
- イ) 東海道新幹線新駅誘致地区を中心に、全国との交流連携の拠点となるツインシティ※とその周辺地域へのアクセスを強化する路線である。
- ウ) 本路線のうち、県道404号（遠藤茅ヶ崎）から評価対象区間までの3.6km区間は、平成24年度までに市道遠藤宮原線等として4車線で供用されている。



2) 評価対象事業の概要

- ア) 評価対象区間は、藤沢市宮原の県道45号（丸子中山茅ヶ崎）から寒川町宮山の県道46号（相模原茅ヶ崎）に至る延長約2.3kmであり、4車線道路を新設する事業である。
- イ) 評価対象区間は、平成25年度に事業着手している。

■ 事業地周辺図



3) 評価対象事業の位置づけ

- ア) 県の計画：
 - a) かながわランドデザイン実施計画
 - ・「交流幹線道路網の整備」として位置づけ
 - b) かながわ交通計画（かながわ都市マスタープランの部門別計画）
 - ・「多車線機能を有する一般幹線道路網構想」として位置づけ
 - c) 改定・かながわのみちづくり計画（H28.3）
 - ・「交流幹線道路網の整備」として位置づけ
- イ) 市、町の計画：
 - a) 藤沢市都市マスタープラン（地域別方針：西北部地域）
 - ・「広域交通拠点や都市間との連携を強める道路交通ネットワークの道路」として位置づけ
 - b) さむかわ2020プラン、寒川町都市マスタープラン
 - ・「周辺自治体との広域的なネットワークを形成する道路として交流と連携を支え、また、さがみ縦貫道路寒川北ICへのアクセス機能も受け持つ道路」として位置づけ

改定・かながわのみちづくり計画



かながわのみちづくり計画 主な整備箇所

凡例	拡幅等整備	新設整備
自動車専用道路網の整備		● (インターチェンジ・ジャンクション)
インターチェンジ接続道路の整備	■	■
交流幹線道路網の整備	■	■

【再評価】

No. 1 県道45号 丸子中山茅ヶ崎 (仮称)湘南台寒川線 道路改良事業

2. 事業の経緯や必要性

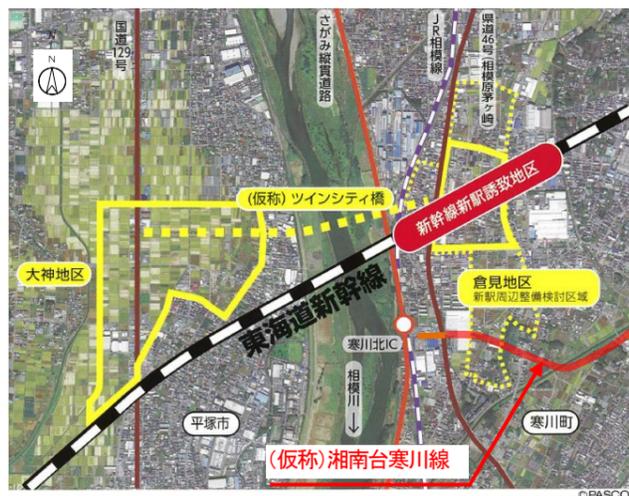
1) 経緯

- 平成24年度：都市計画決定
- 平成25年度：事業着手、地質調査
- 平成26年度：道路設計
- 平成27年度：用地測量

2) 必要性

- ア) 県央・湘南地域の一層の発展と活性化を図るため、さがみ縦貫道路につながる東西方向の道路軸を強化する必要がある。
- イ) 東海道新幹線新駅誘致地区を中心としたツインシティとその周辺地域へのアクセスを強化する必要がある。

※「ツインシティ」の整備
東海道新幹線新駅を誘致している寒川町倉見地区と、相模川を挟んだ平塚市大神地区を新しい橋で結び、両地区一体となった都市を整備することで、全国との交流連携の窓口となる拠点の形成を図るものである。



3. 事業の目的

- 1) 地域の交流と連携を支える新たな東西軸の形成
- 2) ツインシティとその周辺地域へのアクセス強化

4. 事業の内容

- 1) 起終点：藤沢市宮原～寒川町宮山
- 2) 事業延長：約2.3km
- 3) 幅員：25.0m
- 4) 交通量：計画交通量 21,700 台/日 (H42推計)
現況交通量 —
- 5) 道路規格：第4種第1級
- 6) 設計速度：60km/h
- 7) 車線数：4車線
- 8) 歩道形態：両側歩道
- 9) 主な工種：道路改良工、橋梁工(1橋)

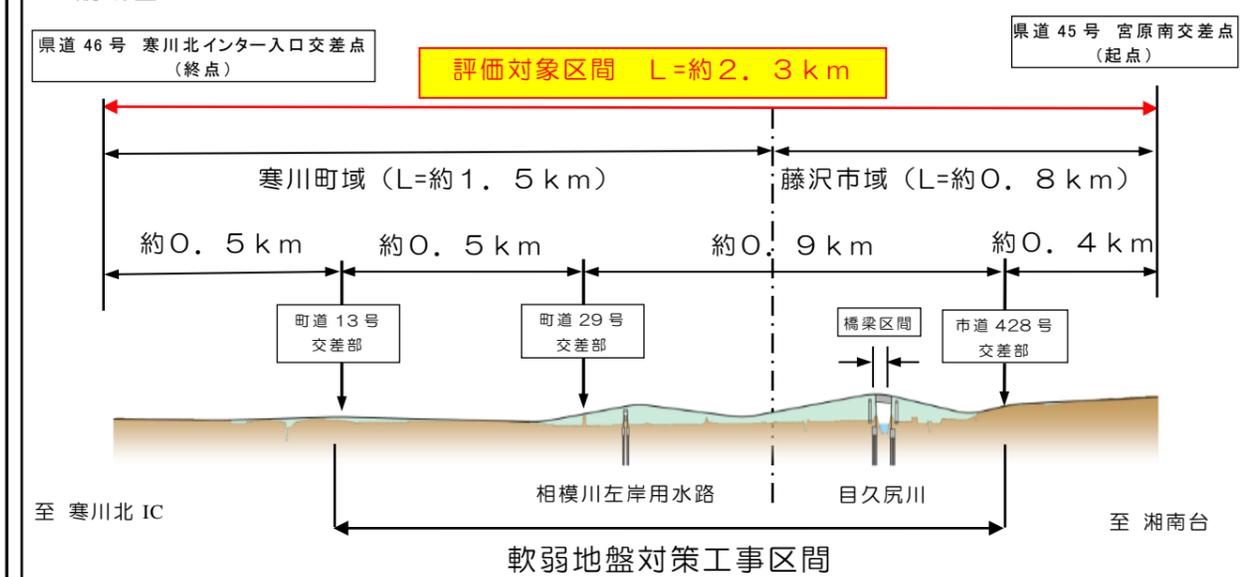
5. 事業実施にあたって配慮した項目

- ・周辺の小学校や保育園からの離隔をできるかぎり確保するとともに、住宅地や農地への影響を考慮し、目久尻川に寄せた道路線形とした。

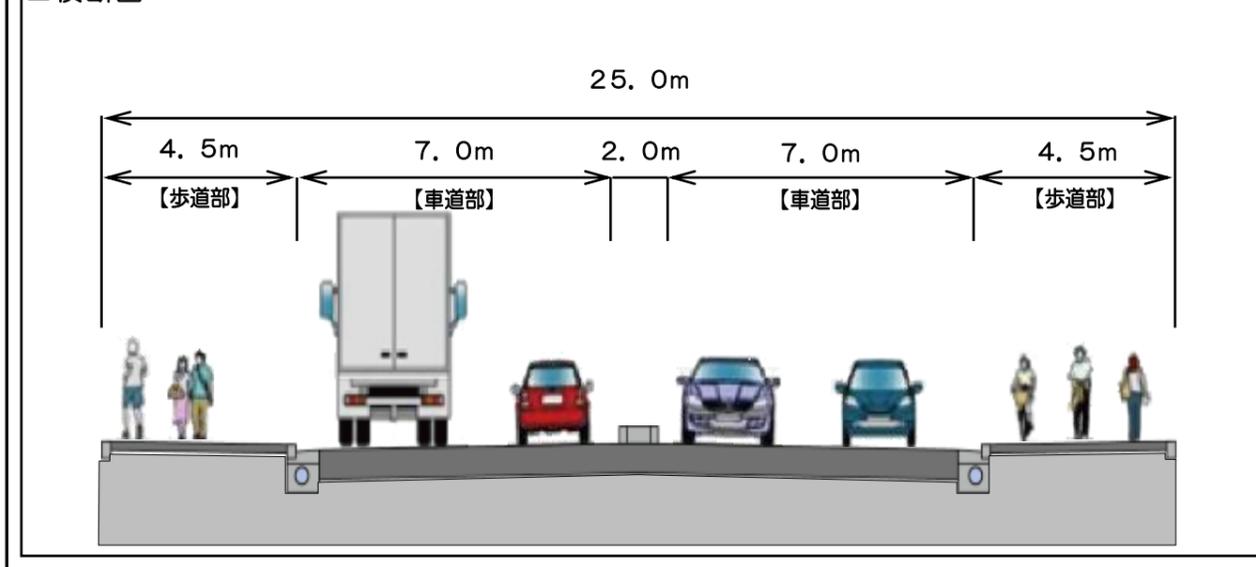
■平面図



■縦断面図



■横断面図



No. 1 県道45号 丸子中山茅ヶ崎 (仮称)湘南台寒川線 道路改良事業

◆チェックリスト

(1) 事業の必要性等に関する視点

①事業を巡る社会情勢

ア) 地域の状況

- ・評価対象区間の周辺は、住宅地や農地が広がり、一級河川目久尻川が北東から南西にかけて流下している。また、公共施設として旭小学校・旭保育園や北部公民館がある。

イ) 地元の意識

- ・さがみ縦貫道路へのアクセス強化により、沿線地域が活性化することを期待し、評価対象区間の早期整備が望まれている。

ウ) 事業地の状況

- ・評価対象区間に並行する東西方向の県道22号(横浜伊勢原)は、さがみ縦貫道路が開通したことなどにより交通量が増加し、交通混雑が生じている。

エ) 周辺の環境

- ・評価対象区間の東側には桐原工業団地があり、現在、北部第二(三地区)土地区画整理事業が進められている。
- ・慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスを核としたまちづくりが進められており、平成28年11月にその一部が市街化区域に編入された。
- ・ツインシティ大神地区土地区画整理事業が平成27年8月に事業化した。

■評価対象路線周辺道路の交通量の推移



※ A、B、C、Dは右側写真方向
< B、Dは航空写真 >

県道22号(横浜伊勢原)の交通量の推移(上図①-①断面)



②事業の投資効果等

- 費用的効果 $B/C = 170 \text{ 億円} / 146 \text{ 億円} = 1.2$
 総費用：146億円
 総便益：170億円
 ・事業費：142億円
 ・維持管理費：4.2億円
 ・走行時間短縮便益：145億円
 ・走行経費減少便益：20億円
 ・交通事故減少便益：4.5億円

- 経済的内部収益率(EIRR) 4.6%

■上記便益に算定されていない効果

ア) 防災

- ・(仮称)湘南台寒川線は、第1次緊急輸送道路に指定されている国道467号と県道46号(相模原茅ヶ崎)に起終点で接続し、県道45号(丸子中山茅ヶ崎)と平面交差することから、この3路線のアクセス強化を図る本路線の整備により、災害発生時の支援助力の輸送力強化等が期待できる。

イ) 安全・安心・利便性

- ・さがみ縦貫道路のインターチェンジにつながることで、藤沢市民病院など複数の第3次救急医療機関への速達性向上が図られる。

ウ) 地域の活性化

- ・周辺の産業集積地における活発な経済活動を支えるとともに、ツインシティや慶應義塾大学周辺地域などの新たなまちづくりの発展に寄与する。



■県道22号(横浜伊勢原)交通混雑状況



■新たなまちづくりが進む地域



■市道遠藤宮原線4車線供用区間状況



■北部第二(三地区)土地区画整理事業・桐原工業団地

【再評価】

№. 1 県道45号 丸子中山茅ヶ崎 (仮称)湘南台寒川線 道路改良事業

③関係する地方公共団体等の意見

- 藤沢市：産業集積地である藤沢市北部地区とさがみ縦貫道路を結ぶ重要な路線であり、広域ネットワークの実現や地域産業の活性化等を図る観点から早期整備を要望する。
- 寒川町：さがみ縦貫道路への円滑なアクセスを図るとともに、ツインシティのまちづくりにも密接に関わる道路であり、早期供用開始に向け整備促進を要望する。

(2) 事業の進捗の見込みの視点

①事業の進捗状況

- 都市計画決定：平成24年度
- 事業化年度：平成25年度
- 進捗率：1% (用地取得率：0%)
- 供用率：0%
- 残事業の内容等：用地取得、道路改良工、橋梁工など

②これまでの課題に対する取り組み状況

- ・目久尻川周辺部は軟弱地盤であることが想定されたため、地質調査を行い軟弱地盤対策工法について検討を行っている。

③今後のスケジュール

- ・用地の早期取得に努めるとともに、順次道路改良工及び橋梁工を進め、事業進捗を図る。

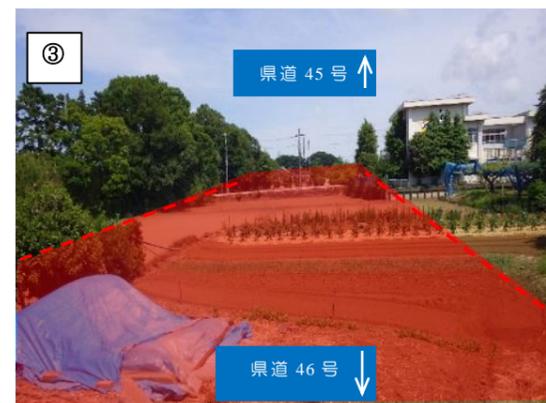
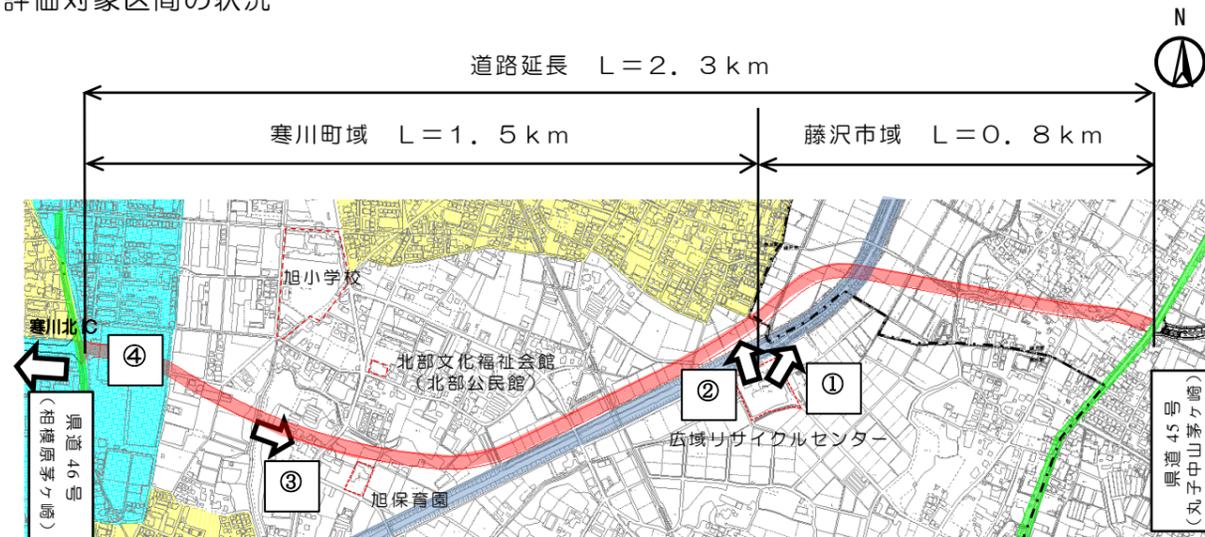
年度 項目	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	H32 (2020)	H33 (2021)	H34 (2022)	H35 (2023)	H36 (2024)	H37 (2025)	H38 (2026)	H39 (2027)	H40 (2028)	H41 (2029)
調査	■												
用地買収		■											
工事		■											

※完成年次については、交通量推計の予測年次により設定しています。

(3) コスト縮減や代替案立案の可能性の視点

- ・評価対象区間東側の市道遠藤宮原線等は既に供用しており、これと併せてさがみ縦貫道路につながる東西軸としての機能を発現するためにも代替案は難しく、現計画による整備が最善である。

■評価対象区間の状況



◆ 対応方針 (案)

継続	本事業は、県央・湘南地域において、さがみ縦貫道路につながる東西軸を形成するとともに、新たなまちづくりが進む地域へのアクセス強化が図られるなど、事業の必要性に変化はなく重要性は依然として高いことから、事業を継続する必要がある。
----	--